

会 報

○立川輝信・中野幡能両氏受賞祝賀会

立川輝信氏は永年の文化財保護の功績により、今秋文部大臣表彰をうけられ、中野幡能氏は昨年度西日本文化賞をうけられたのを記念して、十二月五日、大分市朝日生命ビル二階のレストラン ニュール大分で祝賀会が行われた。約二五名の参加者が両氏の功績をたたえ、盛会の裡に終った。

○県立図書館で郷土資料の所在調査を実施することになり、その第一回会合が九月三日に開かれた。本会員が多数出席した。

編 集 後 記

本号には論説二篇、歴史教育一篇、資料一篇を収めた。

安藤保氏の「府内藩の庄屋について」は庄内町蛇口の三重野文書によって、奥郷の庄屋の交代の問題、井手の成立と免相の変化を述べたものである。

佐藤満洋氏の「大開検地における村位別石盛り制の研究(一)」は前号を承け、村位別石盛り制が畿内諸国においても行われていたことを実証したものである。

安部巖氏の「北へひろがる別府」は別府市石垣小学校でのクラブ活動の成果であって、昭和四十四年十一月二十七日、全国統計教育研究大会でスライド発表したものである。氏は先に四十一年度、四十二年度の成果として「石垣風土記」をまとめられた。困難な状況の中でこうして成果をあげられていることに敬意を表したい。

資料としては、松岡謙一郎氏の宇佐郡安心院のパンバ踊り、念仏踊りの紹介と、野口喜久雄の日田郡大山町の矢幡氏の文書をのせた。

(野口喜久雄)